

【委員会報告】

就職懇談会

企画委員 西田 高大（短大13回生）



6月2日(土)、大学4年生を対象に恒例の就職懇談会を開催しました。

当日は晴天に恵まれ西田高大の司会進行のもと、まず出石弘伸企画委員長(57回生)より就職懇談会の趣旨、次に玉田彰学友会会長(53回生)から、学友会の歴史と活動についての説明をしていただきました。

講演第1部「先輩からの一言」は例年、女子学生から結婚、出産、その後の育児と仕事の両立についての質問が多いため、今年度は2名のママさん技師を含めた5名に講師を引き受けていただきました。

水上大空氏(京都桂病院:大7回生)からは、国家試験対策と就職活動について、ご自身の経験をもとに「勉強にスマートフォンは要注意!! 就職活動は病院のリサーチ、面接練習、自己分析が大事」とアドバイスいただきました。

吉田隆人氏(千春会病院:大6回生)からは、大学附属病院に3月まで勤務されていた経験も含め、大学附属病院の紹介、就職先選び、就職後のアドバイスとして民間病院に移ったからわかることなど様々な経験をお話していただきました。

八木允人氏(医療法人知音会 御池クリニック:短17回生)からは、就職先を予防医学施設にするか病院にするか迷っている学生に、予防医学とはそもそもなにか、予防医学施設の特徴や利点、欠点を詳しく講演いただき、「画像の正常・異常を判断できる力が必要。技師にとっては何百件中の1検査でも受診者には1年に1回の重要な検査で慣れはよくない」と伝えていました。

竹井美佐希氏(医療法人祐生会:みどりヶ丘病院:短13回生)からは、ご自身4人の子供をもつお母さんとして、女性技師のライフスタイルや産休・育休を詳しく説明され、女子学生は聞き入っておりました。また産休・育休をとる女性側の気持ちもお話いただき、我々も含んだ男性陣も勉強になりました。

中村登紀子氏(医療法人宏潤会大同病院:短10回生)からは、学生時代の学費、生活費を自分で払っていたため、バイトに明け暮れ卒業試験前の12月の模試で20%であり、そこから卒業試験までの1カ月死に物狂いで頑張り80%までもっていき、国家試験にも合格できた。その後フィリピンの大学院で学び、現在は論文執筆や子供同伴の勉強会の開催など様々な活動をしているなど、ここでは書ききれない数多くの経験を紹介していただきました。

第2部は「採用する側からのアドバイス」について錦成郎学友会副会長(54回生)に技師長として、どのようにしたら学生は好印象をもってもらえるか、良くない印象を与えてしまうか、天理よろづ相談所病院での採用試験の紹介、面接のポイント、卒後教育など様々な内容の講演をしていただきました。ちょうど天理よろづ相談所病院からの求人情報もあり、学生は一生懸命メモをとっていました。

2部後半のQ&Aでは参加いただいた理事、講師、オブザーバーに学生からの質問に答えていただきました。質問内容として地方出身であるが地方での就職は可能か、もし出産後、1度仕事を辞めた場合再就職先はどのように探したらいいのか、産休や育休などで休んだ際のブランクは不安ではなかったかと様々な質問がありました。

講演後、こちらも恒例となりましたBBQ では、理事、講師、オブザーバーを捕まえて熱心に学生が質問する光景が見受けられ、大変盛り上がりました。ちなみに、私は同級生と結婚しているためか、就職に関する事より恋愛相談が結構ありました(笑)。

最後になりましたが、ご多忙にも関わらず出席頂きました講師・オブザーバーの方々、お世話頂いた大学の皆さま、学友会理事の皆様そしてバーベキューの準備をいただいた西谷先生に厚く御礼申し上げます。

以上

* 通巻 229 号 2018 年 10 月 10 日発行(H30—No.3)より